第８４回メーデー宣言

私たちは今日、労働者・県民の団結と連帯の力で「労働者の祭典」である、第８４回滋賀県民メーデーを成功させました。今、日々の仕事・くらしに大きな負担がのしかかろうとしています。そのような時だからこそたたかいを強め、くらしと雇用を守り、憲法がいきる安全・安心社会の実現を目指すべきだと確認しました。

◇すべての労働者・県民のみなさん

東日本大震災から２年余りが経過しましたが、被災地の生活再建・復興は進まず、暮らしも仕事も復旧にはほど遠いものです。避難を余儀なくされ故郷を離れざるを得ない人も多くおられます。原発事故の影響は色濃く、収束どころか停電による混乱や、汚染水の漏えいが起こり、一層の被害と不安を広げています。

◇すべての労働者・県民のみなさん

そうした中、自民党・公明党連立政権は、一居の構造改革路線を強めています。政権公約を投げ捨て、生活と仕事を壊すTPPへの参加をひた走っています。災禍を撒き散らし続けている原子力発電はやめるべきと、国民の約7割が考えているにも関わらず、再稼働させ、新設し、輸出しようとしています。国会議員の比例定数を削減し、多様な民意切り捨てを推し進めようとしています。憲法を変えて日本を戦争のできる国へと変えることを視野にいれ、９６条を変えようと目論んでいます。

「アベノミクス」は、物価上昇を煽る一方で、年金や生活保護の削減、消費税の増税を進めようとしており、国民生活に大幅な負担を押し付けるものです。いっそうの貧困と格差拡大路線に対して、強い怒りが吹き出しています。

また、一時はあきらめた解雇自由化や労働時間の規制緩和などをすすめ、労働・雇用を破壊しようとしています。

私たちの望みは働きがいのある人間らしい仕事です。デフレの原因は規制緩和し、非正規労働者の拡大、賃金の低下をさせたことです。デフレからの脱却を叫ぶのであれば、第一にすべきことは賃金・労働条件の改善と雇用の安定です。安倍政権の進もうとしている道は全く逆です。

◇すべての労働者・県民のみなさん

日本でも世界でも運動は根を深く張り、広がっています。県内でも4月7日嵐の中、大津市なぎさ公園を会場に1000人の参加で「ストップTPP！県民緊急集会」が開催されました。また、消費税増税、原発、公務員給与削減、年金削減などに反対する共同の取り組みを大きく進めてきました。

これまでの取り組みを力に、今日から新たに運動を進め、日本国憲法に基づく「人間らしく働き、人間らしく生きることのできる社会」を実現していけるように多くの人と連帯し、取り組みに確信をもって進みましょう。

働く者の団結万歳！世界の労働者万歳！第84回滋賀県民メーデー万歳！

２０１３年5月1日

第84回滋賀県民メーデー 10会場にひびく県民の声

働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう

５月１日、第84回滋賀県民メーデーは「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」をメインスローガンに大津会場の膳所公園の３５００人をはじめ県内10会場に１２００人が参加して行われました。今年のメーデーには、従業員組合員、さざなみネットや先輩組合員など19人（大津会場17人）が参加しました。

大津会場は「うたごえ」など文化行事につづき、メーデー式典が始められ、実行委員長の県労連杉原秀典議長は挨拶で「アベノミクスで潤っているのは輸出企業と資産家だけであり、国民生活は大幅な負担増となっている。労働者の賃上げや労働条件向上こそデフレ経済打開の道である。命と暮らし、憲法を守る大合流を作っていこう」と呼びかけられました。

来賓挨拶では、明るい会辻義則代表は「嘉田県政は、労働者委員を選出したり、原発の再稼働や新増設の容認、新幹線駅招致など県民の願いからきくずれている」と指摘されました。

日本共産党の坪田五久男参院選挙区予定候補は「人間らしく働けるルールのある経済社会をつくるために、ご一緒にがんばりましょう。参院選挙で増税・改憲勢力に審判を下そう。」と連帯の挨拶をされました。

また、ＪＡ県農業協同組合中央会の万木敏昭会長からは「国家の主権をゆるがし、国土、農業、食の安全、医療を破壊するＴＰＰは許せない。共に頑張ろう」とメッセージが寄せられました。

つぎにリレートークが行われ、８団体が憲法、米軍基地、消費税、原発、年金、医療、教育、雇用問題などを訴えられました。

最後に、メーデー宣言（上枠）を採択しました。

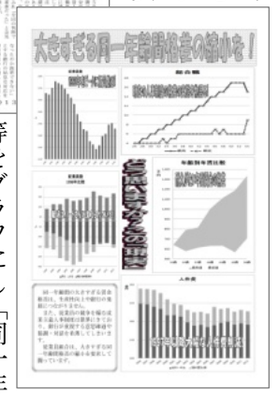
集会終了後、思い思いのプラカードやデコレーションを持ってパルコ前までデモ行進しました。

〒520-0041
滋賀県大津市浜町１－３８
滋賀銀行従業員組合
TEL　077-521-2775
FAX　077-525-5232
http://www.biwa.ne.jp/ffs/
e-mail:ffs@biwa.ne.jp

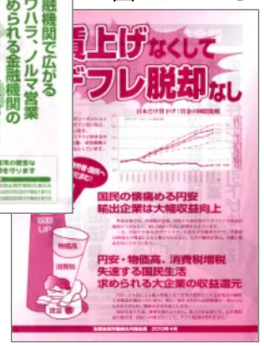
賃金格差是正等を求め本店前でビラ早朝配布

課題は「臨給復元」と「格差是正」

４月25日、従業員組合は１３春闘の重要課題とする「臨給カット枠の復元」と「大きすぎる同一年齢間格差の縮小」を求めるビラを配布しました。ビラには安倍政権の要請に応える形で増額され自動車大手の一時金増額回答の状況をはじめ、当行の大幅な臨給カットの復旧枠と特別一時金のスライド枠組入の要求を一面とし、裏面に従業員数の推移、格差の実態、総人件費の推移等をグラフにし「同一年齢間の大きすぎる賃金格差は、生産性向上や銀行の発展につながらない。また、従業員の競争を煽る成果主義人事制度は限界にきており、銀行が重視する意思疎通や協調・対話を希薄しており、従業員組合は、大きすぎる同一年齢間格差の縮小を要求する」と訴えています。



同日のビラ配布では、上部団体の全国金融労働組合連合会（金融労連）が作成した「職場環境改善の訴え、非正規労働者の権利の問題、改正高齢者雇用安定法」を内容としたビラを配布しました。



また、全国金融労働組合共闘会議（金融共闘）作成の「賃上げなくしてデフレ脱却なし」「金融機関で広がるパワハラ、ノルマ営業、求められる金融機関の遵法精神」のビラも同時に配布しました。

職場の声

SUCCESSが導入されましたが

ＳＵＣＣＥＳＳを導入する前は「ＢＰＲを進める質のある業務遂行」と言われていました。導入直後はトラブル続きでしたが、ようやく落ち着きつつあります。新機能をフル活用し、業務に活かしていきたいものですが、莫大な費用を費やしたのだから、人を減らさないと意味がないと言った事も聞いています。

ＳＵＣＣＥＳＳが入ったからと言って人を減らされては大変です。

それが本当のＳＵＣＣＥＳＳ（成功）？

インフルエンザの猛威 求められる危機管理

本店のインフルエンザの流行は凄まじい勢いでした。そんな時「原因は、女子更衣室だと思うのですが・・・。あんな地下で窓もない空気の入れ替えもないところで、うつらないのがおかしいですよね」と。ある日の某部１７人休みで他部から応援で何とかしのぎました。「危機管理が必要ですね！」

気になる「早い出勤時間」

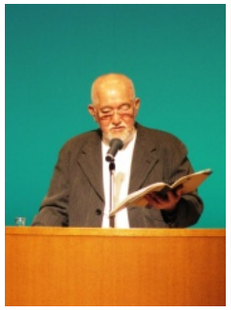
なお、この日のビラ配布は午前7時30分から8時45分の間に７００人に手渡され、多くの役職員の方々から声をかけていただきました。気になったのは、日頃の出勤状況から少し早めに配布を開始しましたが、早い時間の出勤者が多いこと、既に少なからぬ方が出勤されていたことです。

日本国憲法は日本国民の誇り 真の多数はバラバラの少数の中にある

第９回滋賀・憲法のつどい

５月12日、大津市内で滋賀・九条の会主催の「第９回滋賀・憲法のつどい」が開催され会場いっぱいの４８０人がつどい、従業員組合員や先輩組合員など５人参加しました。

つどいは「水口ばやし八妙会」による巡行囃子の演奏で開会され、主催者の挨拶で近藤公人弁護士は「自民党などが９条改悪を狙って改憲要件を引き下げようとしている」と批判し「今こそ正念場であり改憲派の企みを断念させるまでがんばりましょう」と述べられました。

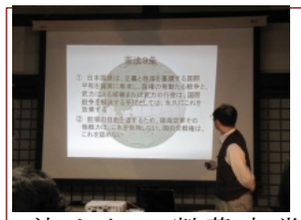


つづいて世話人の川端俊英さんから俳優・演出家・絵師である倉斉加年（まさかね）さんに三度目の要請で講演が実現できたと紹介されました。

講師の米倉さんは、優しい語り口で会場を沸かせながら、中学校の教科書にも掲載されている、戦時中に栄養失調で弟を亡くした自身の体験を綴った著書「おとなになれなかった弟たちに…」から戦争の悲惨さや真実を語られました。また「日本は戦争を放棄し、近隣の国を侵略しない。それは我々日本人としての誇りである」と憲法９条の大切さを強調されました。

また「多数は自民党を選んだというが、真の多数はバラバラの少数の中にあり、力と権力を多数と勘違いしてはいけない」と述べ運動を激励されました。最後に「おとなになれなかった弟たちに…」を朗読し、憲法前文と９条を読み上げられ、会場は大きな拍手に包まれました。

立憲主義の危機 国民主権の危機



憲法記念日の５月３日、東近江市内の寺院において地元年金者組合と平和委員会の主催で憲法学習会が開催されました。

学習会は、近藤公人弁護士を講師に迎え「自由民主党の『日本国憲法草案』批判」をテーマに行われました。まず「憲法とは何か」「立憲主義とは何か」を述べられ、同草案のＱ＆Ａには「改憲の回数を他国と比較しているが、よい憲法であり改正の必要性はなかった」「96条を過半数に変えることは、時の多数派によって人権を侵害する」「米国は上下院の３分の２と４分の３の州議会の賛成、韓国もドイツも３分の２」と指摘されました。

改憲の狙いと問題点がよく分かりました。（Ｔ）